

『英語を使って人と関わることが魅力的だと感じる』授業

外国語の音声や表現に慣れ親しみながら、子どもが体験的に「言葉っておもしろいな」「英語で人と関わることってすてきな」という思いを持つ授業。そんな授業の積み重ねが、小学校外国語活動の目標である「コミュニケーション能力の素地を養うこと」につながります。外国語活動では、中学校からの英語学習に対する期待感と肯定的な気持ちを持てるようにしていくことが大切です。

ポイント 1

コミュニケーションの楽しさを実感する

「友達とゲームをやって楽しかった」だけで終わるのでは、真のコミュニケーションの楽しさを味わったことにはなりません。子どもは、自分のことを表現したり友達の新たな一面を知ったりすることで、人と関わる楽しさを実感し、積極的にコミュニケーションを図ろうとします。単元で目指す子どもの姿を描き、「伝えたい」「聞きたい」という思いが膨らむコミュニケーション活動を設定することが必要です。また、授業では、話し手が不慣れな英語で精一杯伝えたり、聞き手が粘り強く関わったりすることで、「伝わった喜び」「分かった喜び」を実感できるようにしたいものです。使い慣れない英語を用いたコミュニケーションを行うという困難さを乗り越える中で、子どもは相手を意識して、聞き手に分かりやすく伝える工夫を凝らし、コミュニケーションを行うようになります。

これらの態度を教師が価値付けたり、子ども同士で認め合ったりすることで、「思いやりの心」や「自己肯定感」が育ちます。

ポイント 2

言語や文化を体験的に理解する

「言語や文化を体験的に理解する」ということは、「いろいろな文化があるんだな」「言葉っておもしろいな」ということに子どもが自ら気付くことです。子どもが感じた言語や文化に対する親しみや違い・共通点などの気付きを大切にするために、授業では、教材の意図的な提示や ALT との効果的な役割分担をしていきましょう。外国の言語や文化に関心を持ったり、日本のよさに気付いたりすることで、「異なるものへの協調性や寛容性」が培われます。

ポイント 3

成功体験を積み重ねていく

○自信と安心感の中で学ぶ授業

子どもは、「思いが伝わった」「友達の言いたいことが分かった」という経験を積み重ねることで、人と関わることへの自信を深めていきます。そのためにも、単元終末のコミュニケーション活動を行う前に、子どもが語彙や使用表現に十分慣れ親しんでいるか、丁寧に見取りながらスモールステップで授業を進めましょう。そして、多くの成功体験を積み重ねていけるようにしましょう。

○自己肯定感を高める振り返り

子どもが達成感を味わったり、互いの成長を実感したりできるよう、教師は積極的に人と関わろうとした子どもの姿を意図的に取り上げ、価値付けしましょう。

実践事例(小学校6年生)

単元名 「道案内をしよう」

本時の目標 建物や施設の単語、道案内をする表現に慣れ親しみ、それらを使いながら道案内をする中で、ジェスチャーを使うなど相手が分かりやすいような工夫をしようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

学習過程 (4/4時)

学習活動

★Warm-up

- ・サイモン・セズ・ゲームをやろう。
Go straight. / Turn right (left). / Go back. / Stop.

★口慣らしのための活動

- ・リズムチャンツに合わせながら今日使う言葉を確認しよう。
Where is ~? Go straight. Turn right/left. Here is the school. Thank you.

やれそうだ。
案内したい。

★教師によるデモンストレーション

- ・コミュニケーション活動におけるよい例はどっち?

相手に分かりやすく伝えよう。
ジェスチャーを使ってみよう。

★コミュニケーション活動

Where is the ~? Mission Game を楽しもう

- ・案内する側とされる側とに分かれ、道案内をしよう。

A: Where is ~?
B: O.K! Go straight.
Turn right.
(足下の障害物を見つけて)
B: Stop! Be careful!
A: Oh! O.K. Thank you.
B: Here is the ~.

A: Where is ~?
B: Go straight. (行き過ぎてしまった友達に対してジェスチャーを入れて)
Stop! Wait.
O.K. Turn left.
Here is the ~.
B: Thank you!

★振り返りをしよう。

- ・友達と関わるとき、工夫したことやうれしかったことをふり返ろう。

障害物に気を付けて案内したらお礼を言ってもらえ、うれしかった。

やった、OOさんが目的地に着いた。

どんなふうに目的地に案内したいのか、目標が明確です。相手意識を持って工夫して案内しようとする態度を育てることを押さえています。

スモールステップで単語や表現に十分に慣れ親しみましょう。

【第1時：建物の言い方】

【第2時：建物への案内の仕方】

【第3時：グループで案内】

【第4時：一人で案内】

単元最後のコミュニケーション活動に全ての子どもが自信と安心感を持って臨むことができるようにします。

よい例と悪い例を教師がデモンストレーションで示すことで、コミュニケーション活動において意識させたい態度面に気付かせます。

通り道に障害物を用意するなどの仕掛けがあると、より相手意識を持ったコミュニケーション活動となります。

コミュニケーション活動に対する中間評価を入れることで、目標をさらに意識化できます。

コミュニケーション活動から得た学びや喜び、友達のよさを共有することで、自己肯定感が高まります。

『コミュニケーションの楽しさを実感し、英語で「聞く」「話す」「読む」「書く」ことのできる力が育つ』授業

小学校外国語活動で培われた「コミュニケーションへの前向きな姿勢」を生かしながら、中学校では、英語でのコミュニケーションの楽しさや、英語で「聞き取れた!」「話せた!」等という基礎的な運用能力が身に付いたことを実感できる授業づくりが大切です。そんな授業の積み重ねの中で得た「伝わった!」「分かった!」などの成功体験は、子どもに自信を与え、子どもが主体的に学ぶ姿勢につながります。

■ ポイント 1

英語によるコミュニケーションの楽しさを実感する

- 「伝えたい」「知りたい」という思いや意欲を高める
友達について新たな発見をしたり、自分らしさを十分に表現したりすることを通して、子どものコミュニケーションに対する期待感は一層膨らんでいきます。「伝えたい」「知りたい」といった思いや意欲が高まるコミュニケーション活動を設定することで、子どもは英語でのコミュニケーションの楽しさを実感することができます。
- 言語の使用場面や言語の働きを適切に取り上げる
子どもの生活と結びつく場面や未知の世界と出会う場面など、言語の使用場面を取り上げることで、「自分の思いや考えが反映できるやりとり」が生まれ、相手と積極的に関わることができます。

■ ポイント 2

英語で「聞く」「話す」「読む」「書く」ことのできる力を育てる

- 第一に、学習指導要領の4領域の指導事項から単元で付けたい力を焦点化しましょう。そして、CAN-DO リストをもとに「～ができるようになる」という学習到達目標を教師も子どもも共有することが有効です。3年間の系統性を持った学びを意識することもできます。
- 第二に、既習表現を子どもが選び、スパイラルに使用できるようなコミュニケーション活動を、単元で設定しましょう。また、そのコミュニケーション活動に向けて自信を付けていくための帯活動を行ったり教科書を効果的に活用したりするなど、単元計画を工夫することが大切です。

帯活動とは、毎時間授業の始めに短時間で行う活動。例えば、ペアによる会話活動等

■ ポイント 3

成功体験を積み重ねて主体的な学びを促す

子どもは、英語によるコミュニケーションを成立させるために、自分の能力を駆使して様々な工夫を凝らします。その中で「伝わった!」「分かった!」などの成功体験を味わわせることは、コミュニケーション能力を育成していく上でとても大切です。授業では、子ども同士が互いのよさに気付いたりアドバイスをもらったりするための振り返りの場面を設定しましょう。その後、振り返りを生かして再度コミュニケーションをすることで、子どもは伝わった喜びを実感し、成功体験につなげることができます。この「成功体験」の積み重ねが、主体的な学びを促進していくのです。英語の授業を通じて子どもに学びの成果を実感させ、主体的に学ぶ子どもを育てましょう。

■ 実践事例(中学校2年生)

単元名 NEW TOTAL ENGLISH 2 Lesson 6 「The 3Rs in Germany and Japan」
本時の目標 旅行会社が紹介するオプションツアーについて、旅行者がよりよいツアーを選択できるように、互いに英語で質問したり分からない点を確認したりすることができる。(外国語表現の能力)

学習過程 (8 / 8 時)

学 習 活 動

旅行会社と旅行者がお互いに英語でたくさん質問しながらオプションツアーを選ぶ。

- ★おはじきカルタ (前時の復習)
・他のメンバーは絵を見て英語で質問したらおはじきを取ろう
- ★教師 (T 役) によるデモンストレーション

互いに英語で質問したり分からない点を確認したりすることを頑張るぞ。

コミュニケーション活動① (T: Tourist A: Agent)
A: I can show you some optional tours.
T: Can I enjoy shopping?
A: Sure. How about swimming?
T: Umm... I don't like swimming.
A: O.K...

- ★友達からのコメントをもらおう

Aは話題を変えずに買いたいものを聞いてみたら。TはI want to～.でやりたいことを言えるよ。

Can I enjoy～ing? をうまく使っているね。今度は私も使ってみるね。

コミュニケーション活動②

A: I can show you some optional tours.
T: Can I enjoy shopping?
A: Sure. What do you want to buy?
T: I want to buy some souvenirs. What should I buy?
A: Oh! Souvenirs. Dolphin goods!
T: Why? Dolphin?
A: Yes! Yes! You can enjoy watching dolphins.
T: I like dolphins.
I want to try Dolphin Watching Tour and Shopping Tour.

一回目よりうまく英語で質問できたぞ。

- ★コミュニケーション活動の振り返り
・初めはうまく言えなかったけれど、次ははっきり質問することができて、うれしかった。

学習指導要領の指導事項「話すこと(ウ)」を根拠として「付けたい力」を押さえてあります。また、言語の使用場面や働きが明確です。

自信を持ってコミュニケーション活動に臨むことができるよう、質問をして情報を引き出す活動を十分行い、活動における成功体験につなげます。

教師がデモンストレーションをすることで、コミュニケーション活動において意識させたいポイントを子どもと教師が共有します。

「自分の思いや考えが反映できるやりとり」がある活動にすることがポイントです。

振り返りを行い、友達や教師から価値付けやアドバイスをもらうことが大切です。

既習表現を子どもが選んで使用できるようなコミュニケーション活動となっています。

会話における表現の能力を、目標に照らして子どものパフォーマンスで評価します。